

すいていこうすけこくふあと
【推定上野国府跡】

長さ約2mの大きな穴が、複数重なった状態で見つかった。粘り気のある土（粘土）を削り取るように掘られていることから、粘土採掘の穴ではないかと考えられる。穴の中からは、埋める際に一緒に捨てられたものと考えられる多くの土器片が出土した。中には、漆器をまねた「黒色土器」や、金属器の光沢をまねた模様があしらわれた土器片も含まれていた。これらは奈良時代から平安時代前期頃のものと考えられ、粘土の採掘時期が推定できる。

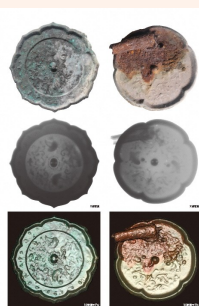
もとそうじゃおうみいせきぐん
【元総社蒼海遺跡群】

元総社蒼海地区土地区画整理事業に伴い、元総社蒼海遺跡群(133)～(139)の7遺跡を調査した。そのうち蒼海(137)では、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡45軒、溝跡6条、土坑38基等を検出した。特筆すべきは、平安時代の住居跡から瑞花双鳥（鳳）文で鈕座縁辺に連珠文が巡る八稜鏡、土坑からは鉄鐸、鉄滓、鈴、雁又鍬と共に、五花鏡と素文鏡が重なった状態で出土した。



写真上：土坑内出土状況

写真右：八稜鏡、五花鏡のX線写真、3D計測写真



せいふだいいちおちあいいせきぐん
【西部第一落合遺跡群】

竪穴住居跡34軒等、9世紀後半～11世紀の遺構を検出した。上幅15m、深さ2mの東西に走行する溝跡は、古代の旧河道もしくは用水路と考えられ、中・近世まで存続していたことが推察される。



前橋市教育委員会 文化財保護課 電話 027-280-6511

まえばし教育の日文化事業

新出土文化財展2020

～令和元年度発掘調査の成果～



上細井中西部遺跡群No.2 5区全景（写真上が西）と出土遺物

■主な遺物展示遺跡■

・上野国府跡、元総社蒼海遺跡群、上細井中西部遺跡群、西部第一落合遺跡群など

2020年11月10日(火)
～11月23日(月・祝)

臨江閣別館 1階 西洋間

前橋市大手町三丁目15番

9:00～17:00

(入館は16時30分まで)

月曜休館(祝日除く) 入場無料

バスでお越しの場合：JR前橋駅からバス（群馬中央バス 新前橋駅西口行き）で10分、遊園地坂下にて下車、徒歩5分。

車でお越しの場合：前橋公園駐車場をご利用ください。

お問い合わせ先 前橋市教育委員会事務局文化財保護課
前橋市総社町三丁目11番地4 電話027-280-6511



～新出土文化財展2020～

令和元年度も市内各所で、公共事業、民間開発事業などに伴い、発掘調査を実施しました。

縄文時代から中・近世に至る様々な時代の遺構や遺物が新たに発見されました。

これらの貴重な発掘調査成果を広く市民の皆様にご覧いただくため、「新出土文化財展2020」を開催いたします。

晩秋のひと時、古代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

令和元年度 発掘調査地図



展示遺跡の概要



にしおおむろかみなびきいせきに
【西大室上縄引遺跡Ⅱ】

古墳時代後期の竪穴住居跡1軒、弘仁9年（818年）の大地震に起因すると思われる「地割れ」の痕跡などを検出した。



こじまたようかいちこふん
【小島田八日市古墳】

4世紀前半頃の古墳と推定される。本市においては前橋天神山古墳以来の前期古墳の調査となり、旧勢多郡地域では初めてである。追葬主体部からは、重圈文鏡、ガラス小玉等が出土した。



かみほそいちゅうせいふいせきぐん
【上細井中西部遺跡群No.2】

縄文時代前期～中期の竪穴住居跡、古墳時代～奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡等が検出され、赤城南麓における集落の様子が明らかとなった。特に9世紀代の大型竪穴住居跡3軒は、南北約9m、東西約6mの規模で、床全面に堅緻な貼床を行ない、住居建替への痕跡も認められるなど、他の竪穴住居跡とは明らかに性格を異にするものであった。

特筆すべきは「円面硯」や「水差し」、墨書土器、銅製帯金具など、一般的な集落跡では見られない遺物が出土したことである。



まえばしじょう（しやくしよにちてん）
【前橋城（市役所西地点）】

調査区南端を東西方向に走行する堀跡は、現存する最古の「前橋城絵図」と照らし合わせると、再築以前（酒井氏時代）の「水曲輪」の堀である可能性が高いと考えられる。



てんじんぶろえぬちてんいせき
【天神風呂N地点遺跡】

縄文時代前期中葉の土坑3基、奈良・平安時代の竪穴住居6軒、溝跡1条等が検出された。狭小な調査区の為、竪穴住居の全容把握には至らなかったが、1辺が6mを超える大型の住居であることが判明した。